令和4年度　「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　他人事ではなく、自分事　」

宮城県　岩沼市立岩沼中学校　２年　岩佐（いわさ）　莉空（りく）

私の母方の祖父の家族は、阿武隈川の土手の近くに住んでいます。令和元年の東日本台風（台風19号）が発生した時、私は妹と二人で祖母の家に泊まっていたのですが、雨が酷くなってきたので、大事を取って岩沼市街の家までみんなで避難することになりました。最初、曽祖母は「避難しなくてもいいのではないか」と言っていましたが、祖母が兵庫県で発生した阪神淡路大震災を経験していたことや、宮城県で発生した東日本大震災の時、職場だった仙台国際空港が大規模な被害にあったことなどから、曽祖母を説得し、みんなで急いで避難したのです。

自宅に戻ったら、トイレから水が溢れてきそうになったり、床下浸水になっていたりして、今まで以上に台風の恐ろしさを実感しました。それでも阿武隈川からは離れている自宅に戻ってきて、少し安心したのです。朝になり祖母の車を見ると、水が溜まりやすい場所に駐車場があったため、水没車になっていました。電気自動車だったため電源は入らず車は壊れてしまいましたが、土手が氾濫しなかったので、祖母宅はかろうじて無事でした。

私の自宅は岩沼市内でも内陸部にあり、土砂災害などの被害はありませんでしたが、私の知らないいろいろな箇所で、その時、土砂災害が起きていたのです。さらに、土砂災害警戒区域に指定されていない箇所でも発生していたことを知りました。このことから、「他人事ではなく、自分にも起こりうることだ」と、事前の対策が大切だということを考えたのです。私は、自分や家族の心配だけで精一杯でしたが、どれだけはやく先を予想し、気付けるのかが鍵になっていると思います。

私がこのことの大切さを実感したのは、神奈川県の土砂災害警戒区域に住む夫婦が難を逃れた事例です。夫婦が住む相模原市に土砂災害警戒情報が発表されました。その後、避難勧告が発令されました。夫婦の自宅は土砂により押し流されてしまいましたが、友人宅に避難していたので難を逃れることが出来たのです。自分の家は平気だ、安全だと思い込まずに、緊急速報メールやニュース番組などで、最新情報を確認することが大事であることが分かります。

私は、昨年度（令和３年度）の土砂災害発生件数は200件程度だろうと勝手に予想していたのですが、国土交通省のサイトを見たところ、なんと902件も発生していたことを知り、私の予想を遥かに超える数字でした。さらに、全国47都道府県のうち、42都道府県で土砂災害が発生していました。このことからも、「他人事ではなく、自分にも起こりうることだ」ということが分かります。

特に昨年は、熱海市で起きた土石流の災害があまりに強烈で、今でも記憶に残っています。突発的に起こり、速いスピードと強い破壊力をもつ土砂災害では、人の命が奪われたり、家などの財産が押し潰されたりするなど、悲惨な結果に繋がりかねません。

土砂災害を未然に防ぐ取り組みは、国や自治体でも行っています。私は昔から高速道路から見える斜面は「なぜコンクリートで固めているのだろう」という疑問を感じていました。調べてみたところ、がけ崩れの危険がある斜面をコンクリートの枠で押さえて、斜面を崩れにくくしているようです。そのような工事全体を「砂防」と呼ぶことを知りました。日本の砂防技術が優れていることや、日本が海外のいろいろな国で砂防の技術指導をしていることなどが理由で、世界の国々でも、そのまま「SABO」という言葉が使われていることを知り、すごく驚きました。そのくらい日本の砂防技術は優れているのです。

私はこのような工事を、土砂災害警戒区域全体に広く施工出来れば、土砂災害の起きる確率は確実に少なくなるのではないかと考えます。ですが、家の周りがコンクリートで囲まれすぎると、圧迫感などを感じてしまうかもしれません。そのようなことひとつとっても、防災とは環境や景観とのバランスを考えながら設置していくべきなので、難しい問題だなと思います。

国や自治体が国民の安全のために、そうした「砂防」に取り組んでいるのなら、私たち市民も自分の命を守るために、できることから備えていかなければなりません。自分の家は平気だ、安全だと思い込まずに、緊急速報メールやニュース番組などで最新情報を確認することが何よりも大事です。避難する、という選択肢を選んでも損をすることはありませんが、逃げない、という選択肢を

選んだら、不安の中で過ごさなければいけなくなるなど、何一つとしてメリットはありません。いつ、私たちの身に危険が襲ってくるかは分からないのですから、常に先を考えて行動することが大事なのです。